

介入・米利下げ観測で円安一服、 いよいよ円高が進む?

月 初1ドル161円台半ばでスタートしたドル円は円高ドル安に振れ、足元では157円台前半にある。この間、CPIの予想割れ等に伴う米利下げ観測の高まり、日本政府による円買い介入実施(現時点では推測)、米大統領再選が意識されるトランプ前大統領によるドル高是正発言、河野太郎デジタル相による利上げ要求報道など円高・ドル安材料が相次ぎ、投機的な円売りの巻き戻しが発生した。

米経済指標には堅調なものも依然見受けられるほか、FRBの利下げは最短で9月とみられるため、目先のドル円は方向感が出にくいだろう。ただし、FRBは物価上昇の鈍化について自信を強めつつあるとみられることから、9月に利下げが開始される可能性が高まった。従って、9月中旬のFOMCが近づくとつれてドル安圧力が強まっていく展開が見込まれる。また、あくまで脇役に留まるものの、日銀による早期利上げ観測の高まりが円高に働く場面も想定される。一方で、本邦貿易赤字・デジタル赤字・旺盛な対外投資から成る実需の円売り圧力は健在のため、円高の余地は限られるだろう。3か月後の水準は155円程度と予想している。

なお、今後とも米大統領選を巡る思惑がドル円の変動要因になる点には留意が必要だ。現在優勢にあるトランプ氏は景気・インフレ加速的な政策を掲げているだけに、基本的に同氏の再選確率が上がれば、米金利上昇を通じたドル高圧力が高まりやすい。一方で、同氏はドル安志向が強いことから、先日のように、ドル高是正発言が出て一時的にドル安が進む事態も想定される。

長期金利は月初1.0%台半ばでスタートした後、日銀による利上げ観測で一旦上昇したが、その後はFRBによる利下げ観測に伴う米金利低下を受けてやや低下し、足元では1.0%台半ばにある。

日銀は7月MPM後に国債買入れの減額を開始するうえ、利上げ観測も燻り続けるとみられるため、長期金利の上昇圧力は今後高まると考えられる。ただし、日銀の国債買入れ方針が明らかになることで、不透明感を理由に手控えていた国債投資を再開する投資家も出てくるだろう。また、FRBの利下げ開始も金利抑制要因となると見込まれるため、3か月後の水準は現状比でやや高い1.1%台と予想している(ユーロ円に関する記述は割愛)。



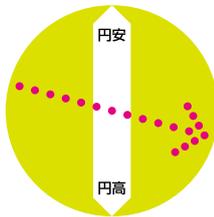
上席エコノミスト **上野 剛志**
うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp

1998年日本生命保険相互会社入社、
2001年同財務審査部配属、
2007年日本経済研究センターへ派遣、
2008年米シンクタンク The Conference Boardへ派遣、
2009年ニッセイ基礎研究所。

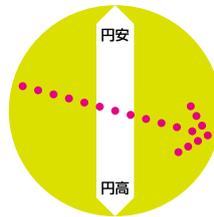


Market Karte

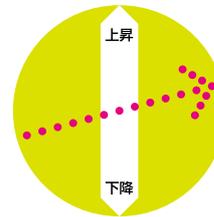
August 2024



ドル円・3か月後の見通し



ユーロ円・3か月後の見通し



長期金利・3か月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

